

いなべ市行楽マップ

私たちはいなべ市と共に歩んでいます



安全・環境経営レポート 第21版



エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社

2025年7月(2024年度活動報告)

2004年度(平成16年度)活動報告から連続21事業年度目の報告

CONTENTS 目次

社長メッセージ ～わたしの環境経営理念～	1
1 会社プロフィール	2
◆ 会社概要、沿革、事業概要、許可・資格等	
2 継続的な廃棄物再資源化の企業間協働・連携体制です	4
◆ 協働・連携企業紹介と連携体制	
◆ 北勢工場への廃油等廃棄物搬入企業数等の状況	
◆ 継続的な企業間協働・連携がもたらした地域貢献等の取組	
3 廃油・汚泥等の再資源化処理プラント「北勢工場」です	6
◆ 北勢工場は 第1エリア・第2エリア・阿下喜エリア 構成で3エリアを一体運営	
◆ 廃棄物再資源化処理施設整備の歩み	
4 北勢工場搬入廃棄物の再資源化システムと環境貢献評価です	8
◆ 北勢工場搬入廃棄物の99.4%を再資源化	
◆ 太平洋セメント(株)藤原工場との再生処理連携システム	
◆ 安心・安全・確実な再資源化推進拠点・北勢工場試験分析室	
5 北勢工場の環境保全と環境クレームの状況です	12
◆ 北勢工場の環境保全の状況	
◆ 北勢工場への環境クレームの状況	
◆ 北勢工場の仲間たち	
6 廃棄物収集運搬事業部門の再資源化挑戦取組です	14
◆ 再資源化廃棄物の収集運搬目標(95.0%)と実績(97.8%)	
◆ 再資源化廃棄物の収集運搬を支える日常活動	
◆ 事業継続を危うくすることが想定される事態の危機管理取組	
7 安定・事業継続のための「環境経営」向上取組です	16
◆ 「環境 & 企業経営」、「ワーク & ライフ」を同軸で捉える企業活動を展開	
◆ ISO14001「環境方針」と推進体制	
◆ ISO14001「環境目標」と活動報告	
◆ 安定・事業継続する企業活動のための働き方(ワーク・ライフ・バランス等)を考える	
8 環境マネジメントシステムと専門組織の両輪による「安全・環境保全」取組です	19
◆ 環境マネジメントシステム活用の教育・訓練等	
◆ 会社専門組織での「安全・環境保全」取組	
9 社会貢献活動の取組状況です	21
10 環境コミュニケーションを大切に考えます	22
11 第三者コメント	24
その他	25
◆ 会社(統括本部・北勢工場)への案内図、いなべ市観光マップ	

報告に当たっての基本的要件

対象組織 会社組織全体を対象として記載。廃棄物の再資源化に協働・連携する企業間の関係についても記載。

対象期間 報告対象期間は、2024年4月～2025年3月(直近事業年度)を基本とし記載。その他、事業経過、事業実績、今後の計画等についても積極的に記載。

対象分野 報告の基軸は環境的側面について記載。その他、社会貢献、労働安全衛生、ワーク・ライフ・バランス、SDGs等、企業活動に求められる社会的分野についても記載。事業の性格上「安全」と「環境経営」を一体として捉え「安全・環境経営レポート」として作成。



SDGs (エスディージーズ) 「持続可能な開発目標」を学び実践しよう!

Sustainable Development Goals の略称です。

- ・ 社会が抱える問題を解決し、世界全体で2030年を目指して明るい未来を作るための17のゴール(P23参照)と169のターゲットで構成。(2015年国連全会一致採択の国際目標)
- ・ 根幹にある「持続可能な開発」とは、「将来世代のニーズを損なわずに、現代世代のニーズを満たす開発」をいいます。あらゆる分野における社会の課題と長期的な視点でのニーズが詰まっています。
- ・ 持続可能な会社にするためには、今の社会のニーズだけでなく、将来のニーズも満たすような事業展開が必要です。私たちは、自らの取組みに関連するSDGsをあてはめて開示することを通じ、2030年の自社の姿を考えた環境経営に取り組めます。

わたしの環境経営理念

社長メッセージ

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)は、廃棄物の安心・安全・確実な処理を基本として、地域社会や顧客のニーズ・信頼に応えられる廃棄物の再資源化に取り組むとともに、自らの環境活動についても継続的に改善する企業活動を展開してまいりました。こうした地道な継続的取組に対して、平成20年に「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」を、平成24年5月には、第10回日本環境経営大賞「環境経営パール大賞」を賜りました。

社長就任以来、受賞に至った「環境経営理念」のもと、廃棄物の再資源化への挑戦と受賞に恥じない企業活動にひたすら取り組んでまいりました。わたし達の「環境経営理念」は、環境と企業経営を対立する軸でなく、同軸で捉えるものです。

また、少子高齢化がもたらす厳しい人材確保には、社会に支持される「ワーク・ライフ・バランス」の定着が不可欠と考えています。今後、環境経営理念と同様に、『「ワーク」・「ライフ」を対立する軸ではなく同軸で捉え、社員一人ひとりの充実したワーク・ライフ・バランスの好循環が、安定・継続する企業活動を創造する。』との二つの同軸理念のもと企業活動を展開します。

こうした企業活動を2018年度活動報告(第15版)から「持続可能な開発目標(SDGs)」にあてはめ開示することを通じ、2030年の自社の姿を考えた環境経営への取組をスタートさせました。

なお、「環境経営理念」を明確に定め、この理念の具現化に向け、「環境経営行動指針」及び「環境経営重点推進事項」を明示します。



伊藤 哲介

環境経営理念

わたしたちが目指す廃棄物の再資源化事業においては、何よりも、地域社会や顧客の信頼を得ることが大切です。「環境と企業経営は対立する軸でなく、同軸でとらえる環境経営の推進こそが、地域社会や顧客の信頼を得られ、企業活動が進展する。」との理念で企業活動を展開します。

環境経営行動指針

- 1 「廃棄物は大切な資源」であることを、全部門・全従業員で共有し、行動する。
- 2 安定・継続する廃棄物再資源化の推進に向けて行動する。
- 3 地域社会や顧客に信頼され、自らの環境活動を改善する企業として行動する。

環境経営重点推進事項

- ① 再資源化処理困難廃棄物の処理範囲を拡充する。
- ② 安定・継続する廃棄物再資源化の関連企業間協働・連携体制を一層推進する。
- ③ 産業廃棄物中間処理工場のイメージを転換する環境管理を徹底する。
* 整理・整頓され、第一印象から安心・安全が感じられるきれいな工場管理
- ④ ISO14001 認証を継続更新する。
* 全部門・全従業員の参画を重視した安全・環境活動を計画し、実施
- ⑤ 環境報告書(名称:安全・環境経営レポート)を毎年発行する。
* 地域の方々に理解され、全従業員の環境経営行動の指針になる分かり易い親しみのもてる報告書



環境大臣表彰



日本環境経営大賞
「環境経営パール大賞」

1 会社プロフィール

会社概要

社名 エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社
 代表者 代表取締役社長 伊藤祐介
 所在地 統括本部 〒510-0814 三重県四日市市清水町4番45号
 北勢工場 〒511-0417 三重県いなべ市北勢町瀬木松之下633番地
 (TEL、FAX、URL、E-mail、会社位置案内図は25ページ)

設立 平成12年(西暦2000年)3月1日
 新日本技研(株)から環境事業部門を分社(通算事業実績50年超)

事業規模 資本金 3,000万円
 設立直近年度と最近7カ年度の決算状況(決算:毎年4月1日~翌年3月31日)

区分	決算	2001年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
社員数(人)		30	63	63	65	65	65	67	68
売上高(百万円)		765	1,527	1,893	2,001	2,227	2,049	1,998	2,176
自己資本比率		26.7%	66.6%	65.1%	67.3%	74.0%	73.9%	81.5%	81.5%
流動比率		148.1%	184.4%	198.9%	282.7%	360.4%	305.7%	452.2%	716.8%

組織
 統括本部 — 総務部 営業部 運輸部
 社長 — 北勢工場 — 藤原出張所
 安全管理室

沿革

こうした歩みの中で、エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社を設立しました。



取締役会長
伊藤 暁

昭和48年3月(1973年) 新日本技研株式会社設立

昭和50年2月 産業廃棄物処理事業部門設置
 56年10月 小野田セメント(株)(現:太平洋セメント(株))藤原工場内で産業廃棄物再資源化処理を事業化
 61年3月 (財)クリーン・ジャパン・センター会長賞受賞(再資源化貢献)

*「自社の製造工場もなく資源化の質・量ともに不十分で、工夫の日々の受賞。さらなる再資源化挑戦意欲が高まり、廃油、廃酸、廃アルカリ等をセメント焼成用補助燃料とするための処理プラントを自社開発し、北勢工場新設へ。」

平成7年12月 北勢工場新設
 (1995年)

平成12年3月(2000年) エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社設立(新日本技研株式会社から環境事業部門を分社)

代表取締役社長 生川好彦 就任
 営業開始
 平成12年6月 北勢工場事務所棟新築
 19年7月 環境大臣表彰受賞(平成20年循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰)
 20年10月 北勢工場 計量証明事業登録(濃度)
 23年8月 第10回日本環境経営大賞「環境経営パール大賞」受賞
 24年5月 試験分析室を拡充整備(ガスクロマトグラフ質量分析装置導入等)
 26年6月 代表取締役社長 伊藤祐介 就任
 27年4月 新社屋へ移転(旧社屋同一敷地内)
 令和2年7月

廃棄物再資源化処理施設整備の沿革は7ページに記載

事業概要

■産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の中間(再資源化)処理

企業活動から発生する廃油・廃酸・廃アルカリ等下記の廃棄物について、三重県知事の許可を得て、セメント製造時の補助燃料等の製品規格に適合させる安全に配慮した化学的・物理的特性に応じた処理を行い、セメント工場での補助燃料等として供給。

- ◆産業廃棄物: 汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類(石綿含有産廃除く)・ばいじん
- ◆特別管理: 特定有害廃油(燃料化できる1,4-ジオキサン含有物に限る)・引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ

■産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬

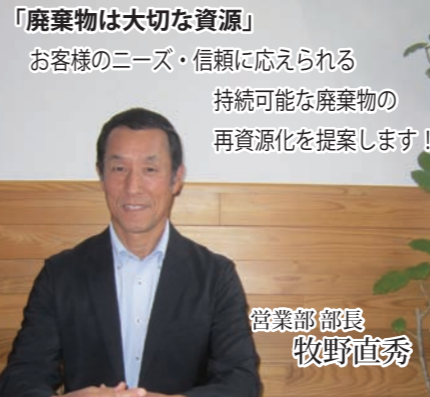
企業活動から発生する下記廃棄物(各自治体で異なります。)について、三重県知事等の許可を得て、セメント原料として供給する等の再資源化に向けての取組みを強化しながら、安全・適正に収集運搬。

- ◆産業廃棄物: 燃え殻・廃酸・廃アルカリ・木くず・動植物性残さ・金属くず・ガラスくず等・銧さい・がれき類・汚泥・廃プラスチック類・廃油・ばいじん
 <以上、三重県知事許可分>
- ◆特別管理: 引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ・産業廃棄物 特定有害廃油(一部)・特定有害汚泥(一部)・特定有害廃酸(1,4-ジオキサン)・特定有害廃アルカリ(1,4-ジオキサン)
 <以上、三重県知事許可分>

※ 三重県の他、神奈川県・福井県・岐阜県・愛知県・滋賀県・大阪府・岡山県・福山市について許可取得

■船舶廃油処理事業

三社(上野マリタイム・ジャパン(株)、日本トランスシティ(株)及びエス・エヌ・ケー・テクノ(株))が連携し、四日市港に入港する船舶の船舶洗浄水処理事業を行うことについて中部運輸局長の許可を得て、体制が整いました。



「廃棄物は大切な資源」
 お客様のニーズ・信頼に応えられる
 持続可能な廃棄物の再資源化を提案します!

営業部部長
牧野直秀

- ◆三重県産業廃棄物税条例の認定「再生施設」(北勢工場) … P 6 参照
- ◆危険物製造所設置許可(桑名市長) … P 7 参照
- ◆計量証明事業登録(北勢工場:濃度) … P 11 参照
- ◆ISO14001 認証取得 … P 16 参照

*優良認定業者です



取締役 常務
岩田 恭典

環境経営理念のもと
 企業活動を展開します

許可・資格等

- 産業廃棄物処分子業許可: 優良認定業者(三重県知事)
 特別管理産業廃棄物処分子業許可: 優良認定業者(三重県知事)
- 産業廃棄物収集運搬業許可: 優良認定業者(三重県知事)
 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可: 優良認定業者(三重県知事)
- 船舶廃油処理事業許可(中部運輸局長)

*一般貨物自動車運送事業
 ・第一種利用運送事業許可
 (中部運輸局長)

*毒物劇物一般販売業登録業者

2 継続的な廃棄物再資源化の企業間協働・連携体制です



挑戦します！
「廃棄物は大切な資源」



持続可能な社会経済活動が求められる今日、廃棄物の再資源化への挑戦を通じまして、排出事業者様が行う持続可能な社会づくり取組のパートナーでありたいと願っています。

創業以来、太平洋セメント(株)藤原工場様とは、様々な協働・連携させていただき「廃棄物は大切な資源」に挑戦しています。

廃棄物排出事業者、廃棄物処理業者、資源化製品利用事業者の三者間の営業取引において、一時の利害や自己の利益のみ追求する経営では、安定・継続する資源化への取組は確立されません。

2024年度においても、お取引先 803社の北勢工場への搬入廃棄物について、有益な取組が出来ましたことに感謝するとともに、一層の「廃棄物は大切な資源」に取組みます。

今後とも安定・継続する連携をお願いします。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)

代表取締役社長 伊藤 祐介

循環型社会構築へ



持続可能な地球の未来を拓く先導役として、セメント産業が循環型社会構築への貢献を進めます。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)グループ等とも協働・連携して地域社会への貢献とも調和した事業活動を展開しています。

平成 27 年 8 月、三重県知事様、いなべ市長様、当社社長が参加して、全国に先駆ける内容で、「循環型社会の形成の推進に関する協定書」が締結されました。

これを契機に、藤原工場内に設置されている三重県所有の「脱塩洗灰設備」が藤原工場に無償譲渡される等、三重県市町の焼却飛灰の安全・安定資源化処理等に繋がっています。

今後の取組みにおいても、一層の協働・連携をお願いします。

太平洋セメント(株)藤原工場

工場長 高野正徳

北勢工場 取扱廃棄物 処理の流れ

太平洋セメント(株)藤原工場



99% 超の再資源化



新日本技研(株)

既存業種の隙間を埋める技術と創意が必要です。隙間には、危険やお客様の不満が存在します。

石油化学コンビナート内のメンテナンス、定期修理等で培った安全管理や処理の技術・経験で社会貢献します。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)
(統括本部)

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)北勢工場への
廃油等廃棄物搬入お取引先 803 社

(2024年度受託処理実績分)

化学工業、石油製品製造業、電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、繊維工業、鋳業……等幅広い企業からお取引いただいています。

挑戦します！
「お客様の困ったを解決」



廃棄物は、安心・安全・確実な処理とともに、環境保全や資源保護に貢献する処理が地域社会や排出事業者様からの要請です。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)は、期待される廃棄物処理を目指し、新日本技研(株)の環境事業部門を分社し設立されました。

一層の連携を図り、目的達成のための企業活動を展開します。

新日本技研(株)

代表取締役社長 伊藤 潔

継続的な企業間協働・連携がもたらした地域貢献等の取組

◆全国に先駆けて、三重県流域下水道汚泥の全量セメント資源化処理方式に参加・継続実施。

流域下水道汚泥の処理の困難さは、毎日発生する大量汚泥の滞留のない処分、且つ、長年月安定・適性処理する責任と決意です。また、大量の臭気を伴う汚泥の収集運搬や処分には、地域との信頼関係を損なわない施設の整備や運営ルールの保持等が必要です。

平成 16 年当時、約 6 割が県外の 3 セメント会社・約 4 割が県内外 3 社焼却施設において、随意契約処理。課題山積の状況でした。藤原工場を活用して、処分費用の低減と継続的安定処理、環境負荷の低減等の地域貢献事業の決意で、平成 19 年度～ 23 年度の総合評価落札方式一般競争入札に参加。現在も継続実施中。

この間、1 浄化センターでの微量 PCB の汚泥混入事案等への地元理解の解決、他県が全国調査した処理費用の優位性検証等して取組中。

◆「循環型社会の推進に関する協定書」

平成 27 年 8 月、三重県知事様・いなべ市長様・太平洋セメント代表取締役社長様が三重県庁で一堂に会し、全国に先駆ける内容で締結。

協定内容：「・・・藤原工場が三重県内の廃棄物等の処理における有効な社会基盤であって、地域として有効活用できるインフラであることを共通の認識とし、循環型社会の形成及び災害時の廃棄物処理の体制について、互いに協力して計画的に取組むための協定を締結する。

また、藤原工場が立地するいなべ市は、本協定の締結について確認し、三重県及び太平洋セメント株式会社の取組に協力する。」

※伊藤祐介社長が太平洋グループとして参加

◆「脱塩洗灰設備に係る資産の譲渡・譲受に関する契約書」

「三重県は、脱塩洗灰設備を平成 29 年 4 月 1 日に太平洋セメント株式会社に無償譲渡する。

太平洋セメント株式会社は、三重県が推進する循環型社会の形成に協力し、県内の一般廃棄物処理施設から発生する焼却灰の資源化に努めるものとする。」

この契約は、平成 29 年 3 月 21 日三重県議会において、全議員の賛成を得て可決成立。

契約の趣旨に沿って、処理困難で処理先が少ない三重県市町の焼却飛灰を優先して説明を行い、幾つかの市の要請にお応えしています。焼却飛灰処理の早期対応の重要性は認識しながらも、既存施設の改修などで躊躇が見られます。



◆社会経済活動で生じる環境負荷を低減。

太平洋セメント(株)藤原工場と当社北勢工場(第 1・2 エリア)は直線距離で 1.5 km、阿下喜エリアはほぼその中間点に位置し、効率的な再生処理連携システムが構築されている。

2023 年 3 月阿下喜エリア内に藤原工場の補助燃料利用量増大のため、屋外タンク貯蔵施設(危険物第 4 類第一石油類)設置。

北勢工場搬入廃棄物の 99%超が藤原工場で再資源化利用。

2009～2024 年度環境負荷低減(16 年間)エネルギー生成量

石炭(一般炭)
約 42 万トン相当

CO2 排出抑制量
約 72 万トン相当



3 廃油・汚泥等の再資源化処理プラント「北勢工場」です

北勢工場は 第1エリア・第2エリア・阿下喜エリア 構成で3エリアを一体運営

● 第1エリア・第2エリアは廃油等の補助燃料等への再資源化処理を行うエリアです

産業廃棄物（特別管理産業廃棄物）の処分業許可（中間処理）施設

産業廃棄物の廃油、廃酸、廃アルカリ等をセメント焼成用補助燃料等に再生処理（中間処理）する施設

危険物製造所としての許可施設（消防法）

- ・危険物第4類第1石油類となるエマルジョン燃料の製造施設【第2エリア】
- ・危険物屋外タンク貯蔵施設【阿下喜エリア】

船舶廃油処理事業許可施設

（海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律）

四日市港での船舶廃油処理事業許可施設

産業廃棄物の中間処理施設			
会社名	エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社 許可番号 第02421069799号 産業廃棄物 許可番号 第02471069799号 特別管理産業廃棄物		
施設名	混練（第1エリア）	混練（第2エリア）	中和
産業廃棄物の種類	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ 廃プラスチック類 （石綿含有産業廃棄物を除く） ばいじん、引火性廃油 特定有害廃油（1,4-ジオキサン）	引火性廃油 腐蝕性廃アルカリ 特定有害廃油 （1,4-ジオキサン等）	廃酸・廃アルカリ 腐食性廃酸 腐食性廃アルカリ
処理能力	252.0t/日	252.0t/日	48t/日
管理者名	エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社 北勢工場 工場長 汲田 亘俊 いなべ市北勢町新木松之下633番地 TEL 0594-72-7850		

● 阿下喜エリアは汚泥等のセメント原料等への再資源化処理・再生処理後の補助燃料を貯蔵するバッファーとしての施設を持つエリアです

産業廃棄物の中間処理施設

会社名	エス・エヌ・ケー・テクノ（株） 許可番号 第02421069799号 産業廃棄物		
施設名	混練（阿下喜エリア）		
廃棄物の種類	汚泥、廃油、廃プラスチック、ばいじん		
処理能力	64t/日		
管理者	エス・エヌ・ケー・テクノ（株） 工場長 汲田 亘俊 いなべ市北勢町阿下喜字中川原3419番1 TEL(0594)-37-4144		



廃棄物再資源化処理施設整備の歩み

- 平成 7年 12月 北勢工場新設（現：第1エリア部分）
- 15年 5月 第2エリア増設（第1エリアに隣接）廃油等再資源化強化
- 19年 4月 処理困難物前処理棟設置（令和3年2月撤去） 難処理物の再資源化挑戦
- 21年 3月 第2エリアに危険物製造所設置 引火性廃油の再資源化拡充
引火性廃油の安全・安定した再資源化処理を行うため、平成20年11月26日桑名市長の許可を得て、第2エリア内に危険物製造所を設置。
危険物第4類第1・2石油類及びアルコール類の取扱に対応できる設備として、受入、保管及び中間処理（混練）工程により、危険物第4類第1石油類となるエマルジョン燃料の製造施設。平成21年4月から稼働。
- 23年 4月 第1エリアの粉体廃棄物再資源化設備を充実整備
平成23年4月第1エリアにおける粉塵の飛散や粉塵爆発防止対策等に対する設備を充実整備し、粉体廃棄物の再資源化を推進。
- 27年 2月 阿下喜エリアに難処理汚泥等の再資源化設備を整備
殆どが液状廃棄物処理の現状から、資源利用されていない固形状難処理汚泥等について、北勢工場の再資源化機能を一層拡充。
- 令和 5年 3月 阿下喜エリアに屋外タンク貯蔵施設（危険物第4類第1石油類）設置
再生処理（中間処理）後の補助燃料を貯蔵するバッファーとしての施設として整備。



自社開発の廃棄物処理プラントです

平成7年12月創業以来培った廃棄物の再資源化技術・経験を生かし、自社開発の廃油等再資源化処理プラント建設（当時は新日本技研株式会社）。社会経済状況の変化に伴う顧客ニーズに対応できる施設設備の改善・工夫を重ね、再資源化処理困難物の再資源化範囲を拡充。

その他 三重県産業廃棄物税条例の「再生施設」です

三重県では、産業廃棄物の中間処理施設への搬入に対し、排出事業者には産業廃棄物税が課されますが、この再生施設へ搬入する場合は課税されません。

計量証明事業登録（濃度）事業所です

ISO14001 認証取得工場です



4 北勢工場搬入廃棄物の再資源化システムと環境貢献評価です

北勢工場搬入廃棄物の99.4%を再資源化

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

12 つくる責任
つかう責任

13 気候変動に
具体的な対策を

2024年度にお取引先803社から処理委託され、北勢工場へ搬入された廃棄物66,125トンにつきましては、セメント焼成用補助燃料等に再生処理（中間処理）して、65,698トン（99.4%）を再資源化して供給しました。

このうち、搬入廃棄物の性状等から、セメント焼成用補助燃料としての利用実績は44,759トン、セメント製造施設を運転管理する工程で、工業用水の一部代替水としての中和処理水利用実績11,662トン、セメント原料としての利用実績9,277トンです。

処理困難廃棄物の再資源化への積極チャレンジは、一時的に再資源化率を低下させますが、研究・工夫を重ね、その向上に取り組んでいます。

中間処理に伴う環境負荷と再資源化がもたらす環境評価

❖ 廃棄物の再資源化に挑戦し、社会経済活動で生じる環境負荷を低減❖

【2009～2024年度】（16年間）
 エネルギー生成量 石炭（一般炭） 約42万トン相当
 CO2排出抑制量 約72万トン相当

区分 年度	エネルギー視点評価 (GJ)			CO2視点評価 (トン)		
	自社中間処理に伴う環境負荷 (A)	再資源化に伴う環境保全 (負荷抑制) (B)	環境貢献 (B-A)	自社中間処理に伴う環境負荷 (A)	再資源化に伴う環境保全 (負荷抑制) (B)	環境貢献 (B-A)
2024	消費量 約3,494GJ 内訳 電力 349,091kwh 輸送燃料 59.47kl (合計熱量) 3494.03GJ	生成量 約842,700GJ 石炭(一般炭) 約32,700トン 相当の資源保護効果	839,206	排出量 約1,555トン 内訳 エネルギー消費量分 300.01トン 残渣焼却(他施設分) 1255.10トン	排出抑制量 約58,400トン 搬入廃棄物が資源化されずに全量単純焼却処理された場合のCO2排出量	56,845
2023	3,416	814,100	810,684	1,350	56,400	55,050
2022	3,430	808,100	804,670	1,283	56,000	54,717
2021	2,977	942,100	939,123	1,137	65,200	64,063
2020	3,144	883,500	880,356	1,343	61,200	59,857
2019	3,345	751,700	748,355	1,435	52,000	50,565
2018	2,826	646,290	643,464	1,049	44,700	43,651
2017	2,659	632,200	629,541	1,271	43,800	42,529
2016	2,369	601,600	599,231	1,252	41,600	40,348
2015	2,300	539,200	536,900	1,617	37,300	35,683
2014	2,448	554,500	552,052	1,935	38,400	36,465
2013	2,357	584,900	582,543	1,737	40,500	38,763
2012	2,183	531,800	529,617	2,164	36,800	34,636
2011	2,084	566,269	564,185	1,642	39,200	37,558
2010	2,084	593,555	591,471	1,127	41,100	39,973
2009	1,854	527,487	525,633	842	36,550	35,708
計 (16年間)	42,970	10,820,001	10,777,031	22,739	749,150	726,411

※現状のエマルジョン燃料は、石炭（一般炭）CO2排出量よりも少なく、石炭代替燃料としても排出抑制効果がある。概ね20%程度の排出量の減量が期待できる。

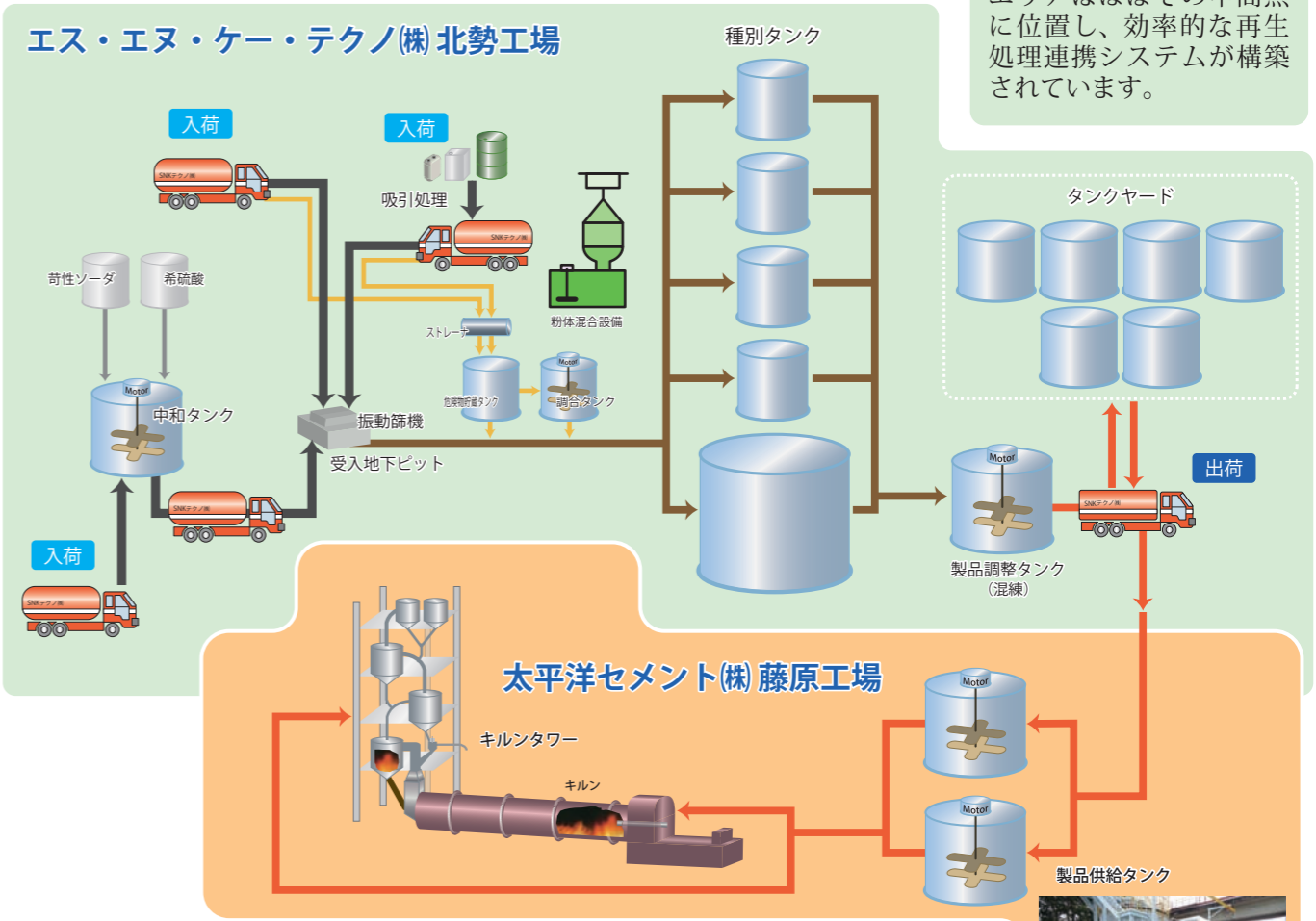
太平洋セメント(株)藤原工場との再生処理連携システム

● 廃油等の補助燃料への再生処理（第1・2エリア中間処理）及び再生処理後の補助燃料を貯蔵するバッファーとしての施設（阿下喜エリア）連携システム

- お客様から集荷した廃油等から異物を除去し、化学的、物理的特性に応じて種別タンクに仕分けして貯蔵
- 製品規格に適合する割合割合で混合・攪拌するなどして製品化
- セメント焼成工程ロータリーキルン補助燃料として燃焼処理
 - ・高温燃焼（1,450℃）でダイオキシン等有害物質生成は完全抑制
 - ・二次廃棄物の発生無（原燃料は全てセメントに取込まれる）



藤原工場と当社北勢工場（第1・2エリア）は直線距離で1.5km、阿下喜エリアはほぼその中間点に位置し、効率的な再生処理連携システムが構築されています。

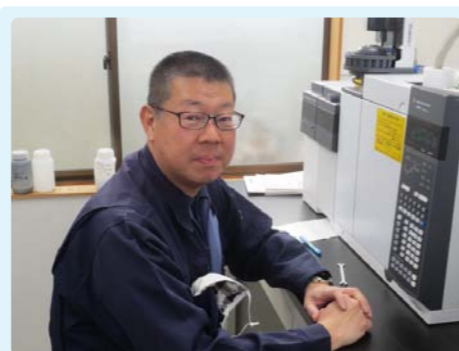


● 汚泥等のセメント原燃料への再生処理（阿下喜エリア中間処理）連携システム

- 集荷汚泥等を性状に応じて、建屋内受入施設の原料ピットや原料ヤードに貯蔵
- 製品調整ミキサーで適量混合し、セメント原燃料規格に適合する成分に調整
- セメント焼成工程の原燃料として焼却・焼成処理



平成26年6月ガスクロマトグラフ質量分析装置導入等に伴い
試験分析室を場内移転拡充整備



環境計量士 次長 柴原 明
(濃度関係)
ISO 事務局長

廃棄物処理において、地域社会や顧客のニーズ・信頼に応える試験分析室を目指します

- ① 会社各部門間の接着剤及び潤滑油となり最適処理推進
- ② 社会ニーズに応える新規廃棄物処理事業開拓
- ③ 培った知識・データを活用し安全な廃棄物処理を全社教育

❖ 適正処理方法の選択に対する適切な情報提供 ❖

廃棄物の安心・安全・確実な処理を基本として、排出事業者責任はもとより、地域社会や顧客のニーズ・信頼に応えられる廃棄物の再資源化に取り組みます。

当社との契約前の事前分析、原料受入分析等を必要に応じて行うほか、お客様に「廃棄物データシート (WDS)」の提出をお願いしています。双方の協力が廃棄物の再資源化や適正処理を進めます。

❖ 二次廃棄物を出さないセメント焼成用補助燃料等への利用促進 ❖

セメントの原燃料は全てセメントに取り込まれ、二次廃棄物が出ません。セメントの品質確保を絶対の要件として、責任を持った品質管理を行い再資源化を促進しています。

❖ 企業排出廃棄物の変化に伴う廃棄物の適正処理への研究・工夫 ❖

硫化水素が発生している液体廃棄物について、薬品を添加することにより、硫化水素の発生を抑えて処理を行う技術を研究 (実証実験を実施中)

❖ 再資源化処理困難廃棄物の処理範囲拡大に向けての研究・工夫 ❖

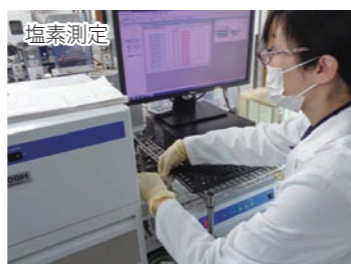
(最近の取組強化事項)

過酸化物等の反応性の高い廃棄物を、事前に水や有機溶剤等で反応しないレベルまで溶解、希釈、攪拌すれば、安全に処理することができることを研究・工夫し把握しました。

すでに数件の処理を実施しており、更に処理困難物の資源化処理に向けて研究、開発を推進します。



研究用攪拌装置



塩素測定



自動燃焼-イオンクロマトグラフ分析装置操作

❖ 「環境配慮方針」を定め、再資源化事業における環境負荷を低減 ❖

取組事例1 廃酸・廃アルカリの中和処理について、廃液の事前分析により、できるだけ廃液同士での中和を行い、再資源化原料使用量を削減

※搬入廃棄物に対する中和剤の使用割合 0.000%

取組事例2 油タンク等清掃スラッジは、溶剤系廃棄物で溶解し、製品調合して資源化

取組事例3 搬入廃棄物の一部を、脱臭スクラバーの消臭薬剤として利用



発熱量分析サンプリング作業

❖ 再資源化に向けての研究 ❖

環境理論や技術で裏打ちされる再資源化処理を研究・工夫し、再資源化処理困難廃棄物の処理範囲を拡充します。

これまでの経験を活かし、既存の理論・技術を新しい観点から

応用・工夫する等の柔軟な発想を持ち、営業担当の提案に耳を傾け北勢工場試験分析室を活用して、着実に推進します。



パージ&トラップ-ガスクロマトグラフ質量分析 / ECD 測定装置



自動燃焼-イオンクロマトグラフ分析装置



発熱量測定装置



蛍光X線分析装置



引火点測定装置

測定実施項目と内容	測定実施時の環境配慮事項等	
全ハロゲン、硫黄量測定	ハロゲン及び硫黄含有量を燃焼分解後のイオンクロマトグラフ法で測定	従来の機器での酢酸使用がなくなり、悪臭の発生なし。測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
発熱量測定	発熱量を燃焼による水温上昇によって測定	有害燃焼ガスは第一エリア脱臭設備で処理
蛍光X線測定	蛍光X線を用いて元素含有量測定 (定量分析で塩素・硫黄・リン・臭素・ヨウ素測定) (FP法分析 (半定量分析) ナトリウム〜ウラン測定)	廃液の大きな構成物質の把握が可能となり一層の適正処理に貢献。リサイクル可能な金属の検出も可能
pH 測定	試験紙の色の変化により測定または pH メーターでの水素イオン濃度測定	環境負荷の小さい試験紙を優先使用 (正式、正確な測定は PH メーター使用)
中和量測定	中和剤使用量を中和滴定によって測定	市販の中和剤を極力使用せず廃液 (廃酸・廃アルカリ) 同士での中和を積極的に導入
引火点測定	タグ密閉式またはセタ密閉式測定方法で測定	省エネタイプの冷却水循環装置を使用 セタ密閉式の導入により、様々な条件の引火点も測定可能
クロム (VI) 測定	六価クロムを指示薬着色による吸光度分析により測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
過酸化物量測定	ヨウ素でん粉反応を利用した滴定で測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
水分量測定	カールフィッシャー水分測定法で測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
ガスクロマトグラフ質量分析 / ECD 測定	揮発性有機化合物 (VOC) や 1,4-ジオキサン含有量をガスクロマトグラフ質量分析法ポリ塩化ビフェニル等をガスクロマトグラフ (ECD) にて測定	前処理の抽出にパージ&トラップ濃縮導入装置を使用し、環境基準値以下の濃度でも測定可能で、さらなる一層の適正処理に貢献 (1,4-ジオキサン含有廃棄物でも処理可能)。また、新たに電子捕獲型検出器 (ECD) を取り付け、PCB (ポリ塩化ビフェニル) 等の測定も可能となった
混触試験	廃棄物の混合によって起こる反応性の有無についての測定	反応を抑えて処理する廃液混合を模索し処理可能になるよう研究
溶解試験	固形廃棄物の溶解処理の可否試験	固形廃棄物の処理拡大のための研究開発実施
汚泥の試験	水分量測定、熱灼減量測定、必要に応じ灰分の蛍光X線分析	有害燃焼ガスは第一エリア脱臭設備で処理

「計量証明事業登録」
濃度に係る計量証明の事業 (平成 23 年 8 月 11 日)

※その他の環境配慮
・測定後のサンプル・試薬の約 98%はセメント原燃料に再利用
・分析器具の洗浄水もセメント原燃料に再利用

5 北勢工場の環境保全と環境クレームの状況です

北勢工場の環境保全の状況

臭気

臭気対策は、ISO14001の環境目標に悪臭対策を定め取組んだほか、北勢工場試験分析室を中心として、継続しての改善に取り組んでいます。臭気の除去は、スクラバー方式（湿式）6連及び消臭剤散布設備の二重対策や排出ガス脱臭装置を設置しています。



◆北勢工場臭気規制基準と測定値

工場・事業場から発生する悪臭の防止については、悪臭防止法に基づく規制地域の指定や規制基準の設定が規定されています。

規制手法としては、

- ①特定悪臭物質規制（不快な臭いの原因となり、生活環境を損なう恐れのある22物質による濃度規制）と
- ②臭気指数規制（人間の嗅覚を用いて悪臭の程度を数値化）の2種類があり、いなべ市は②臭気指数規制です。

北勢工場に適用される規制基準及び指定期間内直近測定値は、次の通りです。

- ①事業場の敷地境界線の地表における規制基準 臭気指数 15（測定値 10未満）
- ②第1エリア 脱臭装置出口 " " 43（" 40）
- ③第2エリア 活性炭出口 " " 45（" 16）

◆臭気測定機器による北勢工場臭気測定状況（自主測定）

区分		第1エリア	第2エリア	阿下喜エリア
臭気指数15に相当するモニター測定値		391	391	391
臭いを感じ始めるモニター測定値レベル ※		350	350	350
モニター測定値 (原則毎週1回)	A地点 最大値～最小値	2～0	1～0	0～0
	B地点 最大値～最小値	16～24	10～8	0～0

測定機器：コスモス電機製ポータブルニオイモニター XP-329ⅢR

※臭いを感じ始めるレベル 適用される臭気レベルの基準はないが、臭いを感じるレベルは概ね350程度です。このレベルでは環境クレームに至っていません。

北勢工場への環境クレームの状況

環境クレームに対しては、様々な事例を想定して、発生させない事前の取組を基本として取り組んでいます。平成17年度に悪臭に対する環境クレームが発生したことから、臭気対策に不断の努力を重ね、その後、環境クレームに至るまでの事案は発生することなく経過しました。しかしながら平成24年度・26年度・27年度・28年度（西暦2016年度）と社会経済活動の変化等に伴う新たな臭気クレームの発生がみられ、できる限りの改善措置を講じました。

2016年度以後9年度間の臭気クレーム等は下記の2件です。

臭気問題は、単に法令基準の適合のみでない機微の事項もあることから、今後とも廃棄物再資源化へのご理解・ご協力の妨げとならないよう、一層の改善に万全を尽くします。

[直近のクレーム事例]

種別	発生日	相手方	状況	対応措置と結果
臭気	平成28・9・15(2016年)	近隣企業	始業前で機器類の起動は無かったが、アミン系の臭気を確認。前日入荷の水系TY（アミン臭）の処理量が多かったため、気温の上昇とともに臭気がタンク上部から出たものと推定。	・直ちにスクラバーを起動して臭気低減 ・今後は、処理量を調整し、臭気低減を図ることを徹底指示
臭気	2020年5月19日	近隣企業	従来、通常荷卸しで問題ない黒濁水であったが、今回の搬入品は通常より悪臭が強かった。	・直ちに、複数の場外への拡散軽減措置を実施 ・サンプル採取時の臭気確認、積み込み時の臭気確認等5項目の予防・是正措置を指示

飛散・流出・浸透防止

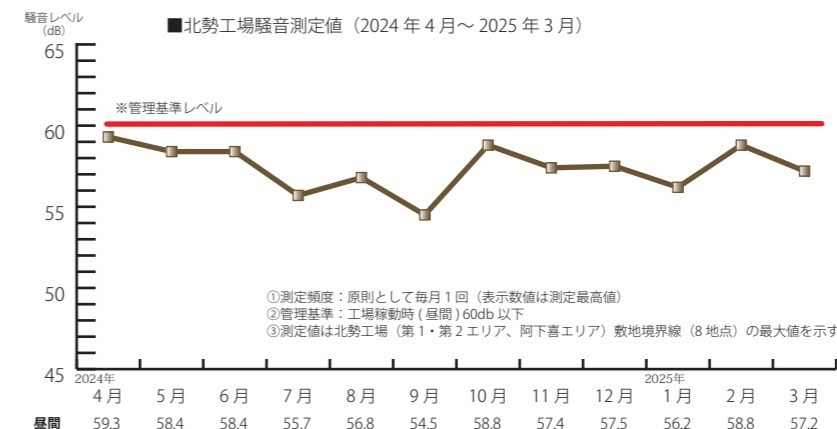
◆工場排水口における水質管理基準（いなべ市環境保全協定）と測定値

測定項目	管理基準	2024年度測定値（毎月1回）	
		第1・2エリア	阿下喜エリア
水素イオン濃度（pH）	5.8以上 8.6以下	6.8～7.4	7.4～8.6
生物化学的酸素要求量（BOD）	25mg/ℓ（日間平均20mg/ℓ）以下	1.2～26.0mg [*] /ℓ	0.2未満～2.8mg/ℓ
浮遊物質（SS）	90mg/ℓ（日間平均70mg/ℓ）以下	1未満～16.0mg/ℓ	1未満～7.0mg/ℓ
大腸菌数	3,000個/cm ³ 以下	1未満～7.0個/cm ³	1未満～180.0個/cm ³
ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量）	5mg/ℓ以下	1未満～1.0mg/ℓ	1未満mg/ℓ

※3/26測定～最終油水分離槽に動物の死骸が浮いていたための上昇

騒音

構造物での遮蔽壁の設置、アイドリングストップ、夜間作業は原則行わない等の対策を行っています。



防火

工場には火を使う処理工程はありません。危険物タンクには、泡消火設備、消火ポンプ設備を設置して、不測の事態に備えています。



6 廃棄物収集運搬事業部門の再資源化挑戦取組です

わたしたちの廃棄物収集運搬理念

わたし達が収集運搬する廃棄物は殆ど再資源化されます。従って、私たちは、大切な資源を収集運搬していると考え行動します。



赤い車輛は、創業者の安全・適正な収集運搬の決意です。創業時の決意と伝統を引き継ぎ、収集運搬する廃棄物を一人一人が大切な資源として取扱っていきます。



再資源化廃棄物の収集運搬目標 (95.0%) と実績 (97.8%)

汚泥等については、その特性により施設設備の整備状況や処理コストなどから容易に再資源化の進まないものがたくさんあります。こうした汚泥等の再資源化に向けて、太平洋セメント(株)藤原工場様と連携・協働して継続して取組んでいます。



◆ 計画スタート時の基準値 (2006 年度実績)	→	2024 年度実績
廃棄物総収集運搬量	52,749 トン	→ 113,037 トン (+60,288 トン 2.1 倍)
うち再資源化量	46,348 トン	→ 110,598 トン (+64,250 トン 2.4 倍)
うち再資源化収集運搬率	87.9%	→ 97.8% (※設定目標 95.0%)

		廃棄物総収集運搬量 (A)	左の廃棄物処理内訳		再資源化収集運搬率 B/A	
			再資源化 (B)	焼却処分等		
第1次計画 (2007～2011年度)	基準値 (2006 年度実績)	52,749 t	46,348 t	6,401 t	87.9%	
	目標値 (5 力年平均値)	—	60,000 t	—	90.0% 以上	
	実績値 (5 力年平均値)	73,133 t	67,718 t	5,415 t	92.6%	
第2次計画 (2013～2015年度)	基準値 (2012 年度実績)	80,823 t	76,268 t	4,555 t	94.4%	
	目標値 (実績値)	2013 年度	— (87,377t)	— (82,465t)	— (4,912t)	95.0% (94.4%)
		2014 年度	— (91,676t)	— (86,707t)	— (4,969t)	95.0% (94.6%)
		2015 年度	— (92,426t)	— (88,062t)	— (4,364t)	95.5% (95.3%)
第3次以降の計画・実績	目標値 (実績値)	2016 年度	— (97,863t)	— (94,218t)	— (3,645t)	95.0% (96.3%)
		2017 年度	— (104,583t)	— (101,995t)	— (2,588t)	95.0% (97.5%)
		2018 年度	— (109,586t)	— (106,723t)	— (2,863t)	95.0% (97.4%)
		2019 年度	(111,809t)	(108,455t)	(3,354t)	95.0% (97.0%)
		2020 年度	(116,476t)	(111,559t)	(4,917t)	95.0% (95.8%)
		2021 年度	(115,835t)	(111,332t)	(4,503t)	95.0% (96.1%)
		2022 年度	(119,076t)	(114,596t)	(4,480t)	95.0% (96.2%)
		2023 年度	(110,673t)	(107,668t)	(3,005t)	95.0% (97.3%)
2024 年度	(113,037t)	(110,598t)	(2,439t)	95.0% (97.8%)		

◆ 6 種類 40 車輛を保有し、安全・環境に優しい収集運搬

粉粒体運搬車	フックロール車	バキューム車	タンクローリー車	ウイング車 平ボディー車	ダンプ車
粒子の小さい飛散性のある固形物の運搬 長距離、高所に粉粒体を排出可能	汚泥等バラ物の運搬 キャリアと荷台が分離できるアーム式脱着装置付コンテナシステム車	液体物の運搬 真空ポンプでタンク内を減圧して吸引、加圧して排出	液体物の運搬 3～4室に区画され、吸引・排出時は他動力使用可	容器類(ドラム・コンテナ・フレコンバック等)の運搬 ・8tパワーゲート車輛装備	汚泥等バラ物運搬 下水道汚泥専用車輛導入(完全密閉式自動シート・消臭剤散布機装備)

※ 2007 年度から、三重県下の流域下水道で発生する汚泥を、全量セメント原料として再資源化処理する事業に、太平洋セメントと当社を含む収集運搬事業者 2 社の 3 社が共同参加。当社においては、生活環境に及ぼす影響に最大限留意して、汚泥の運搬専用車輛(完全密閉式自動シート・消臭剤散布機装備) 9 台を導入して収集運搬しています。

再資源化廃棄物の収集運搬を支える日常活動

◆ 安全衛生会議の開催 ～安心・安全・適正な収集運搬を目指して～

産業廃棄物の収集運搬における安心・安全・適正な収集運搬業務の徹底を推進すべく、定期的に「安全衛生会議」を開催し、社員一人ひとりの意識向上を図っています。

- トラック運転における心構えの再確認
運転者としての基本的な姿勢や安全運転に対する意識を再確認
- 法令遵守に関する教育
日常業務に潜む法令違反のリスクを共有し、法令を正しく理解し実践するための教育
- 事故事例の共有と再発防止対策の検討
実際の発生事例を原因分析し、今後の事故防止に向けた対策を議論
- 危険予知活動 (KY 活動) の推進
現場での潜在的な危険を事前に洗い出し、安全確認を習慣化する取り組みを推進



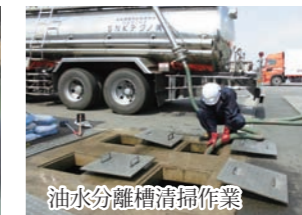
◆ 車輛・積載器材の点検・・・日常点検が信頼の第一歩・・・



◆ 安全運転管理



◆ 駐車場の環境管理



事業継続を危うくすることが想定される事態の危機管理取組

◆ 発生事故の緊急水平展開と徹底改善の取組

事故原因及び影響の重大性を共有し、課題の検証と共有及び徹底改善に取り組んでいます。



7 安定・事業継続のための「環境経営」向上取組です

「環境 & 企業経営」、「ワーク & ライフ」を同軸で捉える企業活動を展開

「環境と企業経営は対立する軸でなく、同軸で捉える環境経営の推進」を掲げ、環境マネジメントシステムを活用して、全従業員の「環境経営理念」の共有を図っています。

今後、環境経営理念と同様に、『「ワーク」・「ライフ」を対立する軸でなく同軸で捉え、社員一人ひとりの充実したワーク・ライフ・バランスの好循環が、安定・継続する企業活動を創造する。』との二つの同軸理念のもと、少子高齢化に対応できる企業活動を展開します。環境管理委員会の機能を活用して、全員で推進します。

環境経営理念の全従業員共有取組

ISO14001 の取組においては、基本的な事項について「自覚を促す教育・訓練」として全部門で毎年実施し、「環境経営理念」の共有に努めています。

- *環境目的・目標達成取組活動に関する教育・訓練
- *環境マネジメント規定・マニュアル改訂等に伴う教育
- *グリーン購入ガイドライン教育
- *内部監査員教育
- *「安全・環境経営レポート」理解促進教育
- *新入社員（初任者）研修・・・等



ISO14001「環境方針」と推進体制

認証取得経過	年月日	内容
	2004年11月1日	北勢工場取得
	2005年11月10日	本社拡大認証取得
	2007年10月12日	第1回更新
	2010年10月12日	第2回更新

更新	年月日	内容
	2013年11月1日	第3回更新
	2016年11月1日	第4回更新
	※2017年の継続更新は2015年版規格において認取得	
	2019年11月1日	第5回更新
	2022年11月1日	第6回更新
	(有効期限 2025年10月31日)	

環境方針

1 基本理念
 エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社は、「環境と企業経営を同軸で捉える環境経営理念」のもと「廃棄物資源化に挑戦する企業活動」を展開しています。この活動の経験と実績は、持続可能な環境の未来への貢献こそが企業存続の道と確信します。企業間の協働・連携体制を強化し、廃棄物の資源化への挑戦と実行を通じて、廃棄物排出事業者様が行う持続可能な社会経済活動づくりのパートナーでありたいと願います。わたしたちは、地域に信頼され、社会に必要とされる持続可能な企業活動を行います。

2 基本方針

- (1) 持続可能な未来に貢献する企業活動を展開
 地域社会や顧客のニーズ・信頼に応えられる、持続可能な未来に貢献する廃棄物の資源化活動を展開する。
- (2) 企業間の協働・連携を強化し、強靱な資源化体制を構築
- (3) 廃棄物排出事業者の持続可能な社会経済活動づくりのパートナーとして展開
- (4) 安全な暮らしや災害等に貢献できる資源化物の活用取組
- (5) 持続可能な開発目標(SDGs)の視点で自らの企業活動を開示
- (6) 事業活動に関わる法令等の遵守

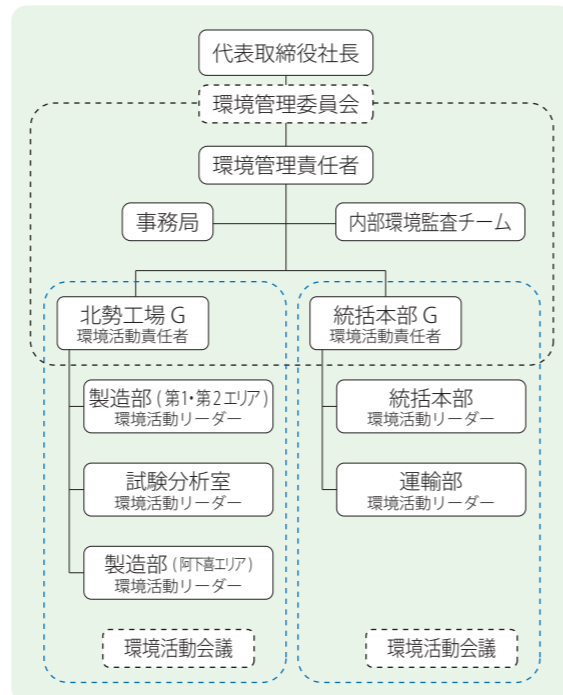
環境方針は、求めに応じ利害関係者に開示し、事業活動に関わる全ての従業員や関連会社に周知する。

2023年4月1日

エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社
 代表取締役社長 伊藤裕介

環境保全推進体制

経営者（最高責任者）を代表取締役社長とする体制で取り組んでいます。



・「環境管理委員会」は、各部門の責任者で構成され、定期的に開催。推進方針の決定や進行管理を強力に推進。

ISO14001「環境目標」と活動報告



◆ 第1次（2004～2006年度）「環境目標」と取組結果

電気、用紙、燃料、中和剤等の使用量の削減と悪臭対策としての設備整備等 15 項目を環境目標に設定し、継続的な改善に取組んだ結果、14 項目で計画達成、1 項目（工場事務部門省エネ）未達成

◆ 第2次（2007～2009年度）及び第3次（2010～2012年度）「環境目標」と取組結果

電気使用量の削減等については、社員の意識や行動が定着してきたことから、環境目標とせず、管理的な項目として継続的に取組むこととし、本来の業務の中での環境負荷低減の視点を重視し、また、環境方針及び環境保全組織も変更

◆ 第4次（2013～2015年度）「環境目標」と取組結果

第4次の環境目標は、第3次に引き続き、本来業務の中での環境負荷低減に注力し、チャレンジ的な目標を掲げ取組んだ結果、ほぼ達成できました。

社員の意識や行動が定着してきた従来の環境取組みについては、環境目標としないものの、管理的な項目（掲載省略）として継続して取組むこととしています。

目標項目（主たるもの）	最終年度(2015年度) 到達環境目標	2015年度実績	評価
廃棄物の資源化量（北勢工場への搬入量）増大	41,500トン	41,115トン	△
グリーン購入（品目指定）	指定品目の100%	100%	○
再資源化廃棄物の収集運搬率	95.5%	95.3%	△
タンク等清掃時に発生するスラッジの資源化	80%を資源化	96.5%	○
輸送1tあたり燃料使用量の削減	平成24年度比3%削減	3.4%削減	○

（注）○目標達成 △相当の取組が認められるが未達成 ×取組未着手又は取組希薄で未達成

◆ 第5次（2016～2018年度）及び第6次（2019年度）「環境目標」と取組結果

第4次に引き続き、本来業務の中での環境負荷低減に注力し、「廃棄物の資源化量増大」と「再資源化廃棄物の収集運搬率」の向上を主要環境目標として取組んだ結果、達成できました。

目標項目（主たるもの）	最終年度到達環境目標		実績		評価
	2018年度	2019年度	2018年度	2019年度	
廃棄物の資源化量（北勢工場への搬入量）増大	52,000トン	54,700トン	53,920トン	60,786トン	○
グリーン購入（品目指定）	指定品目の100%	同左	100%	100%	○
再資源化廃棄物の収集運搬率	95%以上	同左	96.9%	97.0%	○
タンク等清掃時に発生するスラッジの資源化	90%を資源化	92%を資源化	90.4%	95.0%	○

※「環境目標」と「中期経営計画」を同期間設定とするため、2019年度は、単年度の環境目標設定

◆ 第7次（2020～2022年度）「環境目標」と取組結果

第6次に引き続き、本来業務の中での環境負荷低減に注力し、特に「廃棄物の資源化量増大」に野心的目標を掲げ取組みましたが達成できませんでした。

目標項目（主たるもの）	最終年度(2022年度) 到達環境目標	2022年度実績	評価
廃棄物の資源化量（北勢工場への搬入量）増大	82,200トン	66,043トン	×
グリーン購入（品目指定）	指定品目の100%	100%	○
再資源化廃棄物の収集運搬率	95%以上	96.2%以上	○
タンク等清掃時に発生するスラッジの資源化	95%を資源化	88.3%以上	△

◆ 第8次（2023～2025年度）「環境目標」

第8次目標は、「廃棄物の資源化量増大」と「再資源化廃棄物の収集運搬率」の2目標に絞って野心的な目標を掲げ、「環境方針」についてもこの方針に沿って改正しました。

目標項目（主たるもの）	最終年度(2025年度) 到達環境目標	2024年度目標・実績		
		目標	実績	評価
廃棄物の資源化量（北勢工場への搬入量）増大	85,000トン	83,500トン	64,608トン	×
再資源化廃棄物の収集運搬率	95%以上	95%以上	97.8%	○

挑戦します！
第8次環境目標



営業部 課長 伊和 裕介

8 環境マネジメントシステムと専門組織の両輪による「安全・環境保全」取組です

安定・事業継続する企業活動のための働き方（ワーク・ライフ・バランス等）を考える

新社屋への移転による私たちの働き方改革例

- ① バリアフリーの執務（来訪）環境。
駐車場から車椅子スロープを使い、エレベーターホールから3階建て各階へ移動可能。
- ② ドリンクサーバーを設置して、いわゆるお茶くみを廃止。各自の生理的要求に応じて各自飲料。
- ③ 個人用に近いゴミ箱配置を無くし、中央に設置した裁断機や印刷機等のスペースにのみ設置。
- ④ 営業部門のプレゼンルームは透明仕様。お客様からの問い合わせ等に他部門の者も迅速に対応。



連携！働き方改革！
総務部 課長
樽沢幸憲



社員ライフメッセージ



「父親リスト」から
一歩踏み出しました!!!
運輸部 二井佳祐

当社二人目の男性育児休業（3か月）を頂きました。職場の皆様のご理解ご協力に感謝します。育休中「ライフ」は、子供と向き合う時間を大切に！復帰後は「ワーク」で貢献できるように人間力を高めて戻って来たいと思います！



キャンピングカーで車中泊！
全国各地の温泉地巡り旅
続けています!!
運輸部 部長
松田裕樹

各地の美味しい肴と共に、車中でゆったりと一杯傾けるひとときが、心も体も癒してくれる贅沢な時間です。これからも新たな土地との出会いを求めて、旅を楽しみます。



何気ない日常のメッセージ!!!

(第20版) 竹中健司さん	(第20版) 織 裕介さん	(第19版) 児玉彩由美さん (現・山田)	(第19版) 辻 一真さん	(第18版) 片岡智子さん	(第18版) 柴原 明さん
---------------	---------------	-----------------------	---------------	---------------	---------------

アウトドア派の元気なメッセージ!!!

(第20版) 越後諒太郎さん	(第19版) 牧野直秀さん	(第18版) 大橋ジョイさん	(第17版) 二井佳祐さん	(第16版) 岩田恭典さん	(第15版) 東原忠烈さん
----------------	---------------	----------------	---------------	---------------	---------------

環境マネジメントシステム活用の教育・訓練等

「安全・環境保全」に関する教育・訓練等は全部門・全社員の参画を基本とする環境マネジメントシステムの中に組み込んで計画的に実施している。

◆事故や緊急事態の対処・環境保全訓練の実施

各部門や従業員が主体的に関わる各種の教育・訓練は、従業員の現状認識を高めている。想定される事故等に対する明確な目標を定め、主体的に取り組む教育・訓練として計画的に実施する環境マネジメントシステムに組み込んで教育・訓練を実施している。



❖ 防火訓練

想定：タンクからの出火に対する泡消火剤使用想定訓練
訓練：消火ポンプ機動、泡消火剤使用想定訓練
消火栓からの消防ホースによる初期消火活動実施訓練

❖ 事故・災害時の緊急連絡教育

北勢工場内、太平洋セメント藤原工場内、その他顧客先・公道の三通りの連絡網と連絡要領についての教育

❖ 試験分析部門で想定される事故及び緊急事態の対処訓練

予想される事故及び緊急事態、汚染の予防手順及び役割、汚染の緩和手順及び役割、緊急連絡網の説明及び使用訓練、救急救命の方法と実施訓練、ガス検知器・保護具の使用法・・・等



◆専門分野教育・訓練の実施

地域社会や顧客のニーズ・信頼に応えられる従業員の資質の向上に取り組んでいます。職場研修の充実、幅広い資格取得や受講の機会を提供しています。

- * 各種資格取得のための講習会参加・受験
- * 新規施設設備に関する教育・訓練
- * 関連法令、規定類、手順書等の教育
- * 特定試験分析作業と環境配慮事項等教育・訓練
- * 薬品取扱・管理、安全に関する教育
- * 他社廃油処理施設等の事故に学ぶ教育

◆収集運搬教育・訓練の実施

- * 産業廃棄物収集運搬の法令順守教育
- * 危険物タンクローリー車：廃液引取実施訓練
- * 基本作業の徹底・運行前点検の実施強化
- * 積荷作業中の墜落・転落等事故防止教育
- * 環境・人に優しい運転マナーアップ教育
- * ウィング車、パワーゲート車の取扱手順教育



社員の資格取得状況（関係資格等の一部）

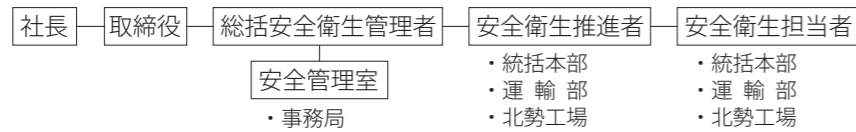
環境計量士 濃度関係	1名
公害防止管理者 大気関係第一種	1名
公害防止管理者 水質関係第一種	3名
危険物取扱者 甲種	3名
危険物取扱者 乙種第4類	42名
産業廃棄物中間処理施設技術管理者	2名
特別管理産業廃棄物管理責任者講習	2名
第一種衛生管理者	4名
運行管理者	13名
酸素欠乏等危険作業主任者技能講習	46名
有機溶剤取扱作業主任者技能講習	43名
特定化学物質等 作業主任者技能講習	14名
消防設備士 乙種第6類	5名
ISO14001 内部環境監査員	13名
普通救命救急講習	17名
職長・安全衛生責任者教育	37名
.....等	

会社専門組織での「安全・環境保全」取組

「環境マネジメントシステム活用の安全・環境保全取組」とともに、幅広い専門的視点から、安全・環境保全を推進する「安全管理室」を設置して取組んでいます。



◆安全管理体制



◆経営トップと安全管理室による全職場の安全・環境パトロール

パトロールは、安全管理及び環境経営の視点に立って、保護具の着用状況、不安全箇所・不安全行動の有無、整理整頓状況等きめ細やかな点検及び前回の指摘事項に対する是正状況を確認し、確実に改善します。

項目	2024年度の状況	最近3カ年度の状況			備考
		2023	2022	2021	
経営トップパトロール	2回(6月・9月)	2回	2回	2回	毎月1回定期的実施
安全管理室パトロール	10回	8回	10回	10回	*軽微事項も重大事
年間指摘事項件数	56件	39件	47件	65件	故に繋がるとの認識
未是正項目(現状)	10件	同左8件	6件	13件	で繰り返し指摘

◆リスクアセスメントの取組強化

平成23年度から「リスクアセスメント」の取組を導入。全社を挙げて、事業におけるリスクを発見・特定し、特定したリスクを分析・評価して、改善実施。北勢工場を対象に、化学物質リスクアセスメントに取組み、実施手順書の制定及び手順書に基づく主な化学物質のリスク評価を実施・継続中。

◆安全衛生大会の開催

2024年7月6日(土) 統括本部大会議室
北勢工場 オンライン中継

実施内容：開会宣言・社長挨拶・表彰・安全研修

安全研修 ①「保護具の正しい使用方法と社内アンケート調査結果のご報告」

講師 北勢工場 環境計量士 柴原 明

安全研修 ②「ルールを守り、事故を防ぐ」

講師 運輸部 運行管理者 森下芳也



◆安全・衛生標語の募集

最優秀衛生標語(応募48件)

運輸部 加藤正和

「(S) 素敵な (N) 仲間が集う

(K) 快適職場」



最優秀安全標語(応募55件)

北勢工場 矢田恭一

「何かが違う？違和感見つけて

危険を排除 職場に光る確かな眼」



◆安全衛生委員会の開催

第一回 2023年度安全衛生活動実績及び反省
(4月23日) 2024年度部門安全衛生活動計画(案)の検討等

第二回 第一四半期活動報告
(7月23日) 安全週間の総括 第二四半期の活動確認等

第三回 第二四半期活動報告
(10月21日) 労働衛生週間の総括 第三四半期の活動確認等

第四回 第三四半期及び2025年1月の活動報告
(2月28日) 第四四半期の活動予定
2025年度安全衛生活動計画(案)について等

◆安全衛生会議(北勢工場毎月開催)

(議題例)

●安全衛生活動計画の周知

●熱中症対策について

●インフルエンザ、ノロウイルス予防について

●硫化水素の危険性について

●交通安全について

●地球温暖化・CO2削減への取組み

●火災予防について

●危険予知活動の推進

●太平洋セメント藤原工場重要伝達事項



9 社会貢献活動の取組状況です

地域社会の一員としての認識や活動は、企業活動において大切な事項の一つだと考えます。当社の人材や技術等を地域社会で活用することを中心に取組んでいます。

= 活動実績 =

◆災害義捐金を寄付

平成30年7月豪雨(西日本豪雨)災害義捐金を寄付させていただきました。

平成27年6月熊本地震災害、平成23年3月東日本大震災及び平成23年台風12号三重県災害に対する災害義捐金寄付に引き続き行ったものです。

被災者の皆様に心からのお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興を願っています。

◆三重大学教育研究助成金への寄付

2024年7月三重大学に対し、平成24年以降で12回目の「三重大学教育研究助成金」を寄付させていただきました。



◆経営トップの環境関係委員等への就任・協力

* 三重県環境審議会公募委員への就任(平成20年12月1日~22年11月30日)

* 三重県環境審議会専門委員への就任(平成22年12月1日~平成24年10月31日)

◆他企業、団体等の環境取組等への協力

*消防署消防訓練(危険物施設事故対応訓練)への協力参加

訓練日時等：平成27年6月24日 エス・エヌ・ケー・テクノ(株) 駐車場
訓練内容：道路上でクレーン車がタンクローリーに追突し、第二石油類の廃油が漏洩

訓練参加機関：四日市中消防署(本署・中央分署)、消防救急課、四日市市消防団三重分団、エス・エヌ・ケー・テクノ(株)



*みえ・グリーン購入倶楽部「伊勢志摩サミット応援事業」への協力

みえ・グリーン購入倶楽部(平成29年3月「みえグリーン活動ネットワーク」に改称)は、伊勢志摩サミット開催の機会を捉え、三重県旅館ホテル生活衛生同業組合青年部と「観光施設における環境経営」についての講演会を開催しました。当社もこの事業の開催を支援させていただきました。

*JICA(独立行政法人 国際協力機構)への事業協力

平成22年の事業協力に続き、平成24年11月7日JICAが実施した「コロンビア国ボゴタ首都特別区廃棄物総合管理基本プロジェクト」に協力してエマルジョン燃料の製造等の説明・北勢工場見学

*ICETT(公益財団法人 国際環境技術移転センター)への事業協力

平成20年10月24日、ICETTが実施した中華人民共和国河南省環境保護局研修員の公害防止技術研修協力

◆ビオトープの創出

平成27年2月に整備した阿下喜エリア敷地に約230㎡のビオトープを造りました。

廃棄物の資源化と小さな生態系を共生させ、ともに育てます。



◆地域貢献活動

周辺地域美化活動

統括本部・小杉詰所・北勢工場周辺で春季及び秋季の年2回 毎年実施

安全・環境経営レポート裏面に「いなべ市の案内」掲載
工場見学者等に地域紹介



10 環境コミュニケーションを大切に考えます

環境に関する情報を開示し、積極的に環境コミュニケーションを図ることにより、地域社会や顧客の信頼を得るとともに、自らの環境活動を継続的に改善する企業でありたいと考え行動し、このための取組を一步一步着実に築きあげます。このため、一層の環境コミュニケーションの充実を図り、皆様からのご意見やご指導をいただく機会を増やす努力を重ねます。

ISO14001 認証取得

- 2004年11月1日 北勢工場取得
- 2005年11月10日 全社拡大認証取得(2022年11月1日第6回更新審査・確認)

環境報告書(安全・環境経営レポート)第21版の作成、公表

2025年7月、第21版「安全・環境経営レポート」(2024年度活動報告)を作成し、公表。
2005年9月初版発行(2004年度活動報告)から連続21事業年度目の報告。

当社事業の性格上「安全」と「環境経営」を一体として捉える事が適切であることから、「安全・環境経営レポート」として作成。今後とも様々なご意見やご提案をいただきながら改善し、毎年発行します。

※第四版以降毎年7月発行、第五版から第三者コメント(第15版から三重大学大学院工学研究科 応用化学専攻 理事・副学長・教授 金子 聡 様)掲載



ホームページ開設 URL: <http://www.snk-techno.co.jp>

＝掲載内容＝

- 会社概要:** 代表あいさつ・会社案内・沿革・関連企業・アクセス
- 事業概要:** 事業概要・産業廃棄物処理・廃棄物収集運搬・品質管理・各種許可証
- 環境・安全取組:** 環境取組・ISO14001 認証・安全取組・社会貢献取組
- その他:** 安全・環境経営レポート・採用情報・産業廃棄物についてのお問い合わせ

工場見学(視察)の積極的受入

直近5年度間で556企業等から1,103名の皆様にご視察いただきました。

アンケート等により様々なご意見をいただき、継続的改善に取り組んでいます。今後とも、忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。

高校生の職場見学会を実施

2022年に引き続き2023年10月17日(火)四日市四郷高等学校長からの要請に応え、生徒7名(1・2年生)職場見学会を実施しました。生徒の感想は好評でしたし、社員の教育の場ともなりますので、今後も協力させていただきます。



	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	5年度計
見学企業	147社	127社	113社	104社	65社	556社
見学人数	235人	276人	261人	202人	129人	1,103人

経営トップによる環境取組発表

- ※令和2年2月18日 一般社団法人三重県産業廃棄物協会主催の「産業廃棄物処理業における安全衛生研修会」で安全衛生活動について講演
- ※平成25年2月14日 一般社団法人三重県産業廃棄物協会主催の「産業廃棄物処理法説明会・環境対策事例発表会」で環境省講師とともに、「環境経営について」の演題で講演。
- ※平成24年5月31日 第10回日本環境経営大賞パネルディスカッションパネリストとして参加
- ※平成22年3月5日 三重県、四日市市、三重県産業支援センター主催「低炭素社会シンポジウム分科会・低炭素社会に向けての企業が目指すべき環境経営」パネリストとして参加



環境大臣表彰を受賞

平成20年10月24日、「平成20年循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」(3R活動優良企業)を受賞しました。

日本環境経営大賞「環境経営パール大賞」(環境経営部門の最優秀賞)を受賞

第10回日本環境経営大賞表彰式(平成24年5月31日開催)

日本環境経営大賞は、全国の企業や団体等の優れた環境経営の取組を表彰することとして、2002年度に三重県が創設し、「日本環境経営大賞表彰委員会(委員長 山本良一 東京大学名誉教授)」が表彰。



第10回で終了となりましたが、以下の通り、全国企業等の環境取組が10年間にわたり展開され、その実績が評価されました。

- ※応募総数 1,279件 (うち県内134件・県外1,145件)
- ※受賞総数 148件 (うち県内19件・県外129件)

環境経営パール大賞受賞者 14団体(うち県内4・県外10)	
第1回	㈱滋賀銀行本店
第2回	アサヒビール(㈱神奈川工場)
第3回	シャープ(㈱亀山工場)
第4回	㈱INAX
第5回	㈱リコー
第6回	伊那食品工業(㈱)
第7回	トヨタ自動車(㈱堤工場 速水林業)
第8回	㈱滋賀銀行本店 国立大学法人 三重大学
第9回	日本興亜損害保険(㈱) 千葉大学環境ISO事務局
第10回	前田建設工業(㈱) エス・エヌ・ケー・テクノ(㈱)

私たちこそが、心通わせ信頼を醸成する
最良の環境コミュニケーションツールでありたいと行動します。



環境活動団体への加入

- ◆ みえグリーン購入ネットワーク会員
- ◆ 公益社団法人三重県緑化推進協会賛助会員

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



私たちの企業活動をSDGsにあてはめ開示しました。

17の目標のうち7目標(4・7・8・12・13・15・17)を延19個それぞれの活動にあてはめました。SDGsを理解する段階ですが、今後とも貢献できる領域に目標を定めチャレンジしていきます。

11 第三者コメント



三重大学大学院工学研究科
 応用化学専攻
 理事・教授

金子 聡

2000年3月1日の会社設立以来、2025年3月で26年目となり、また、2005年度（平成17年度）に初めて安全・環境経営レポートが発行されて以来、今回のレポートで第21版目の発行となります。昨年、第20版が発行され、一つの節目になりましたが、また、新たなスタートを切られたことと存じます。継続することは非常に重要であると考えておりますので、第30版、第40版と積み上げ、今後も、安全と環境経営に関する報告を続けて行って欲しいと思います。

新たなスタートとなるレポート第21版を、詳細に拝読させていただきました。2015年4月には現在の伊藤代表取締役社長の体制になってから、2025年4月で10年が経過したと思います。今回のレポート第21版は、現体制においても新たなスタート感を感じることができます。

2001年と比較して、2024年度、従業員数は68名となり、2.3倍になっております。また、売上高は、21億7600万円となり、こちらも2.8倍になっております。自己資本比率は、26.7%から81.5%に増加し、安定的に業績が向上してきていると思います。

事業規模が拡大する中で、それぞれの事業部門の責任者の方針が明確にされていることは特筆すべきであると考えられます。まず、営業部・牧野部長により、従来は「廃棄物は大切な資源 安全・安心・確実に処理します」の方針から、「廃棄物は大切な資源 お客様のニーズ・信頼に応えられる 持続可能な廃棄物の再資源化を提案します」と、明確な提案型の意思が示されていることは大変素晴らしいと思います。運輸部・松田部長により、「安心・安全・適正輸送!!! 大切な資源を次代へ」とのポリシーが掲げられており、また安全会議の開催内容が詳細に掲載され、再資源化廃棄物の収集運搬を支える日常業務の重要性を感じることができます。

また、太平洋セメント株式会社の藤原工場に高野工場長が赴任され、大森前工場長から交代がなされましたが、継続的な廃棄物再資源化の協働・連携を推進していけると思います。さらに、6ページには、「北勢工場は第1エリア・第2エリア・阿下喜エリア 構成で3エリアを一体運営」を掲げており、事業の中核は北勢工場であることがより明らかにされていると思います。一方、太平洋セメント株式会社の藤原工場との再生処理連携を会社の内外に示すため、工場長写真での連携記載や、「藤原工場製品荷卸」の写真に掲載してあり、今後、阿下喜エリアの北勢工場での役割が大きくなる必要性を感じさせます。

地域貢献のための貴重な取り組みとしては、2007年度から全国に先駆けて、三重県流域下水道汚泥の全量セメント資源化処理方式に参加・継続実施していることが挙げられます。2024年度から2028年度の5年間、続けて継続受託することになり、通算22年間になります。2024年度事業についても事業目的に沿って実施できたことがよく理解できました。ただ、「脱塩洗灰設備」の活用については、県内市町において、焼却飛灰処理の早期対応は重要だと思っておりますので、既存施設の改修などで躊躇が見られるのが懸念されます。

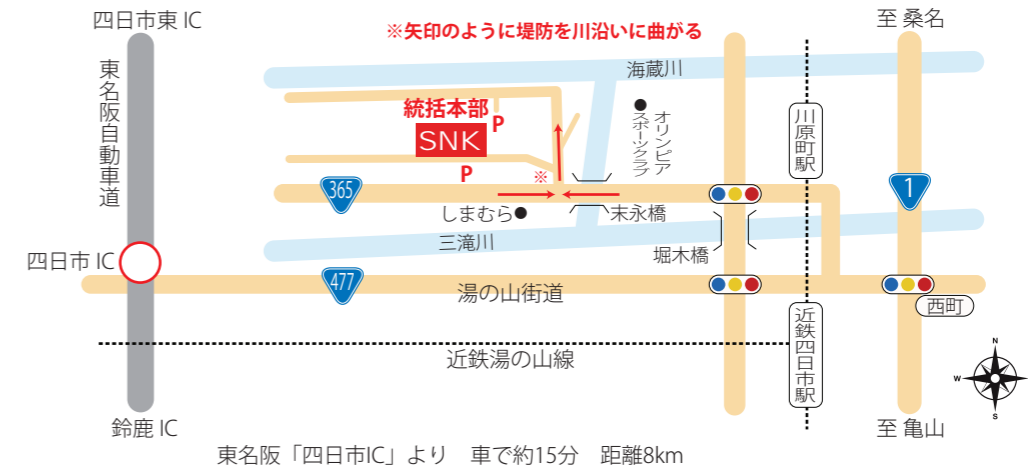
第7章の「安定・事業継続のための環境経営向上取り組み」では、社員一人一人の充実したワークライフバランスの好循環が、安定・継続する企業活動を創造するとの理念の下、何気ない日常のメッセージとアウトドア派の元気なメッセージが掲載されており、生き生きとしたバランスのあるワークライフが送れていると推察することができました。

以上述べてきましたように、安全・環境経営に十分に配慮しつつ、企業経営も着実に実施されている、すなわち、環境と経営を対立する軸ではなく、同じ方向を向いたベクトルと捉え、成功裏に収められていると言えます。今回は第21版のレポートとなりますが、これからも、初心を忘れることなく、安全・環境経営レポートを内部・外部に公表・発表し、さらなる企業発展を続けていただくことを切に願います。

統括本部

☎510-0814
 三重県四日市市清水町4番45号
 Tel 059-332-3711
 Fax 059-332-2132

URL: <http://www.snk-techno.co.jp>
 E-mail: eigyoubu@snk-techno.co.jp



北勢工場

☎511-0417
 三重県いなべ市北勢町瀬木松之下633番地
 Tel 0594-72-7850
 Fax 0594-72-7851

